

上関地点 2023年度 環境監視調査結果について(報告書の概要)

2023年度の水質調査結果は、管理目標値を満足していた。

陸生、海生生物については、過去の調査結果と比較して顕著な変化は見られなかった。

項目		調査時期	調査結果概要			
水質	陸域工事排水の水質	月1回	水素イオン濃度、浮遊物質量ともに管理目標値内であった。			
			項目	調査結果	管理目標値	
			水素イオン濃度	6.9～7.6	5.0以上9.0以下	
			浮遊物質量(日平均値)	7mg/L以下	150mg/L以下	
陸生生物	ハヤブサ	4月:2回/月 5月:2回/月 6月:2回/月 2月:1回/月 3月:2回/月	2023年度は、4月に3羽のヒナを確認し、5月には巣立ちした幼鳥1羽を確認したことから本年度の繁殖は成功した。また、親鳥を各月で確認した。			写真1
	植生	年1回 7月24、25日	イヨカズラを6箇所13株、ジュウニヒトエを28箇所165株、クロムヨウランを2箇所9株、ビャクシンを1箇所1株確認した。			写真2
海生生物	潮間帯生物	年2回 4月7、9日 10月12、13日	植物ではフクロノリ、クロメなど60種、動物ではアマガイ、カメノテなど49種を確認した。 【確認種類数】・植物:春57種、秋33種 ・動物:春43種、秋41種			写真3
	海藻草類		クロメ、サビ亜科など62種を確認した。 【確認種類数】春59種、秋27種			
	底生生物		ムラサキウニなど6種を確認した。 【確認種類数】春6種、秋6種			
	スナメリ	3月～10月 ^{※1} (週1回・計32日)	確認回数は計27回、延べ54頭を確認した。			写真4
	カクメイ科等の貝類	年4回 5月9～11日 8月1～3日 11月13～15日 2月7、8日	2023年度は、5月にカクメイ科の貝類を1個体確認した。 タイドプール ^{※2} 2箇所のうち1箇所は、2010年に岩盤の崩落が確認されて以降、引き続き崩落の恐れがあるため、1箇所で調査を実施した。			写真5

※1 スナメリ調査は2023年3月から開始

※2 タイドプール:干潮時に海辺の岩場にできる潮だまり

【参考】

《環境監視計画以外の環境調査》

○ カムリウミスズメ(写真6)

2023年度調査の結果、計画地点周辺海域において9回延べ21個体を確認した。
計画地点周辺海域において広く確認されたが、工事施行区域内での出現はなかった。

○ カラスバト(写真7)

2023年度調査の結果、計画地点において9月、10月に鳴き声を確認した。
鼻線島においては、4月に姿、7月～12月、2月、3月に姿および鳴き声を確認した。

○ ミサゴ(写真8)

鼻線島において、7月に巣立ち後の幼鳥4羽を確認したことから繁殖は成功した。

天田島においても、7月に巣立ち後の幼鳥1羽を確認したことから繁殖は成功した。

小島では、7月にヒナ2羽を確認したが、7月(2回目)の調査では親鳥・ヒナともに確認されなかった。

今後も繁殖が継続して行われる可能性があるため、引き続き生息状況を確認する。

○ クロサギ(写真9)

2023年4月から7月の各月で周辺の岩場等で1羽が確認されたが、既知営巣地の利用は確認されなかった。

今後も繁殖が継続して行われる可能性があるため、引き続き生息状況を確認する。

【調査写真】

写真1:ハヤブサ



(4月11日(親鳥))



(4月11日(巣に止まるヒナ))

写真2: 植生



イヨカズラ(7月24日)



ジュウニヒトエ(7月24日)



クロムヨウラン (7月24日)



ビャクシン(7月24日)

写真3: 潮間帯生物、海藻草類、底生生物



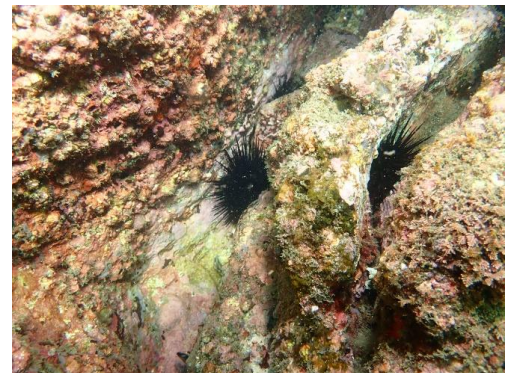
フクロノリ(4月7日)



アマガイ(4月9日)



クロメ(4月9日)



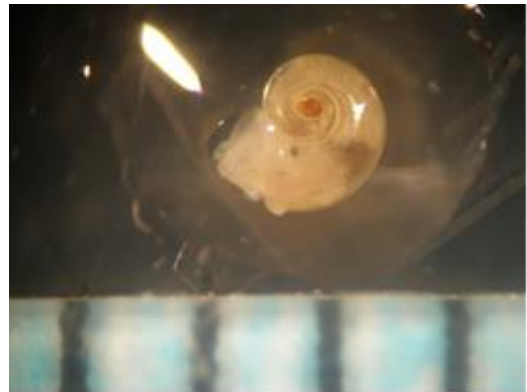
ムラサキウニ(10月13日)

写真4: スナメリ



(3月27日)

写真5: カクメイ科等の貝類



(5月10日)

写真6: カムリウミスズメ



(2月6日)

写真7: カラスバト



(10月19日)

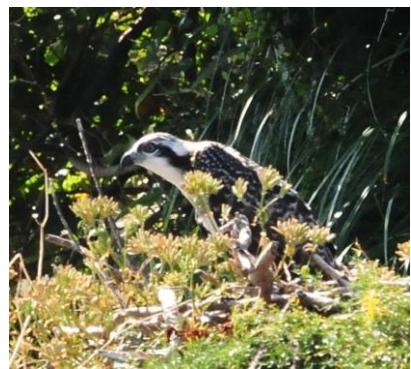
写真8:ミサゴ



(6月13日 ヒナ[鼻線島])



(6月27日 親鳥[小島])



(7月25日 幼鳥[天田島])

写真9:クロサギ



(4月18日)

環境監視委員会 委員からのコメント

【2023年度環境監視調査結果について】

項目	主なコメント
水質 (陸域工事排水)	水質調査結果は管理目標値内であり、大きな変化は見られておらず、環境保全措置が適切に実施されている。
陸生生物 (ハヤブサ)	2023年度は、1羽の幼鳥の巣立ちを確認しており、繁殖は成功している。また、親鳥の生息を各月で確認しており、引き続き状況を確認すること。
陸生生物 (植生)	経年変化は過年度のデータから見ても自然変動の範囲内であり、工事のない状況においても自然要因による増減が確認されている。
海生生物 (潮間帯生物、海藻草類、底生生物)	経年比較すると、出現種類数については自然変動による多少の増減が見られており、主な出現種の上位種に変動があることから継続して確認すること。
海生生物 (スナメリ)	経年比較すると、1回確認当たりの頭数は過年度調査とほぼ同等であることが確認でき、顕著な変化は見られていない。
海生生物 (カクメイ科等の貝類)	カクメイ科の貝類を1個体確認しているが、タイドプールの水質、底質については過年度調査の変動範囲内で、顕著な変化は見られないため、環境保全上、問題ない。

【その他について】

項目	主なコメント
ミサゴ	2023年度は、鼻線島・天田島で幼鳥の巣立ちを確認しており、引き続き生息状況を確認する必要がある。また、小島のミサゴについては、繁殖は確認できなかったが、引き続き繁殖状況の確認を行うこと。
クロサギ	2023年度は、繁殖は確認できなかったが、引き続き生息状況を確認する必要がある。

以上